

各 位

一丸ファルコス株式会社

**低刺激で安定配合可能な自然指数 1.0 の「バクチオール」素材を発売。
国内原料メーカーならではの安心して使用できる植物由来エイジングケア原料**

一丸ファルコス株式会社（本社：岐阜県本巣市、代表取締役社長：安藤芳彦）は、2025年9月8日よりエイジングケア用途に、低刺激で安定配合可能な天然化粧品原料「バクチオール ピュア プラス」<表示名称：バクチオール>の発売を開始します。

バクチオールは、インドやスリランカなどで採取される「オランダビユ (*Psoralea corylifolia*, バブチ)」の種子（図 1）に含まれる成分で、「次世代型レチノール」「植物性レチノール」とも呼ばれ、シワ改善や保湿、抗炎症などレチノールと同等のエイジングケア効果がありながら、刺激が少なく敏感肌の方でも使いやすいと注目の抗老化素材です。

弊社では、従来のバクチオール原料に改良要素を見出し、不純物を減らして澄明度を向上し、安定性を高めたオリジナルのバクチオール素材を開発し、「バクチオール ピュア プラス」として発売を開始しました。「バクチオール ピュア プラス」は、各種安全性試験や汎用化粧品原料との相溶性データなども取得、トレーサビリティの明確化や 0.5kg からの少量単位での販売など、国内原料メーカーならではのきめ細かなサポートがあり、安心して使用できる「バクチオール」原料となっています。

「バクチオール ピュア プラス」は、カフェインレスコーヒー製造にも使われる安全で環境負荷の低い超臨界流体（CO₂）抽出製法にてインド産オランダビユ種子より抽出されています。従来の溶剤抽出のバクチオール原料と比べ、澄明度も高く（図 2）、安定性に優れており、非常に使いやすい素材です。また、環境に優しい製法に加え、本原料は生物多様性条約（CBD）の精神を遵守し、インド協力会社と原産地の州生物多様性委員会とのあいだで、生物資源の商業利用に関するアクセス契約を締結しており、大変サステナブルな原料となっています。

自然指数 1.0 の「バクチオール ピュア プラス」は、皮膚の細胞(表皮細胞)を使った試験により、レチノール誘導体と同様なレチノイン酸受容体（RAR β 、 γ ）の発現挙動を示し、レチノール様作用を確認。また同じく細胞試験で表皮の角化や保湿の関連因子であるインボルクリンやフィラグリン、セラミド合成酵素、ヒアルロン酸合成酵素などの mRNA 発現量が大幅に増加させることを確認（図 3）、表皮角化や保湿を促す効果が期待されます。

ヒトモニター試験では、30~60代男女 12名のモニターに、0.5%バクチオール ピュア プラス配合オイルを顔と首部に1日朝晩2回、4週間塗布し、試験前後の肌状態を確認したところ、コントロール群に比べ、バクチオール ピュア プラス塗布群では、水分量の維持（保湿作用）が認められました（図 4）。また、首正面部のシワの大きさを解析したところ、バクチオール ピュア プラス塗布群で有意なシワ改善作用が認められました。（図 5）

「バクチオール ピュア プラス」は、クリーン製法で使いやすいレチノール様植物由来エイジングケア原料です。弊社独自技術を使った水系への安定配合目的のナノミセル化や pH 応答性リポソーム化による浸透性向上など、アプリケーションも合わせてご紹介可能です。

「バクチオールピュアプラス」 製品概要

製品名：バクチオールピュアプラス

表示名称（化粧品）：バクチオール

INCI：Bakuchiol

お問い合わせ先：一丸ファルコス株式会社 営業部 販売促進課：伴野

TEL：058-320-1061, e-Mail：contact@ichimaru.co.jp

図表



図1 インド産オランダビユ種子



図2 製品外観（左：溶剤抽出バクチオール、右：バクチオールピュアプラス）

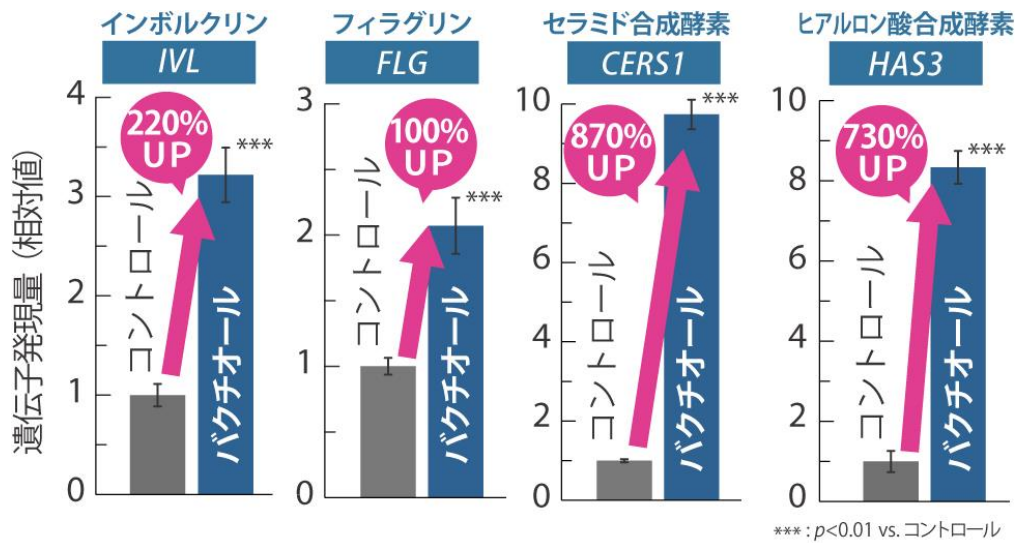


図3 「バクチオールピュアプラス」の表皮分化/保湿因子増加作用

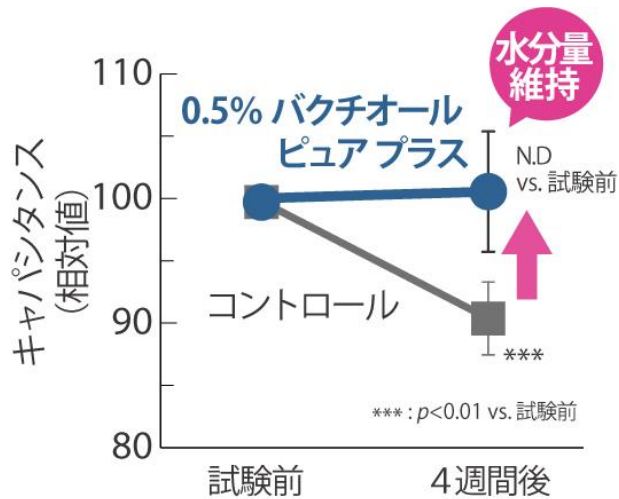


図4 「バクチオールピュアプラス」の保湿作用

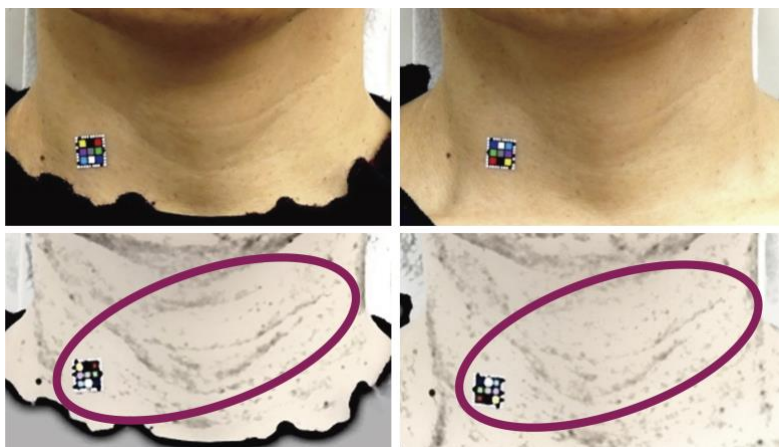


図5 「バクチオールピュアプラス」のシワ改善作用 (左: 試験前、右: 試験4週間後)

以上